

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」鈴鹿校		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 20日		～ 2024年 12月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2024年 12月 20日		～ 2024年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 7 (1名休職中)
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々に合わせた、丁寧な個別支援	個々の発達に合わせた療育を行うことが基本であるが、個別対応することで、より丁寧な療育が行うことが出来ている。また保護者への丁寧なフィードバック対応にて信頼関係もしっかりと確立されている。	小集団の活動を組み合わせることで、多面的な視点でのアセスメントが可能となる。個々の課題をよりクリアにすることで、更に充実した療育を目指す。
2	校舎職員の多様性	保育士、心理士、社会福祉士など、また外国籍職員も教育や心理士の資格を持っており専門的アプローチを行っている。更に日本語の療育だけでなく外国籍職員によるポルトガル語での療育も行っており、個々の必要性に応じて併用した言語の療育対応も行うなど、言語の多様性にも対応している。	個々の職員のスキルアップを目指して、本部開催の研修などへ積極的に参加していく。また、事業所単位での勉強会を引き続き行っていく。自己研鑽のため、個人的に通信教育にて勉強を行っている支援員もいる。
3	施設環境と送迎対応	施設建物が元コンビニのため駐車場が広く主要道路に面しており、車での保護者送迎に便利である。また教室以外にホールスペースがあり室内での運動遊びが可能。自宅から自宅、学校や保育所など個別のパターンに合わせ送迎対応している。	安心安全に利用できるように環境の整備に配慮していく。また、スムーズな送迎になるようにカリキュラム調整していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所認知度の低さ	事業所母体は大きく全国的展開になっているが、地域での認知度が低い。相談事業所の業務を併設していないためサービス利用の依頼を受ける状況である。今まで、請け負い待ちの姿勢であり、積極的な営業を行ってこなかった。また関係機関とのやり取りも電話が主となっていた。	各相談事業所への営業と信頼を得るような関係性の構築を目指す。地域の機関との交流や会議参加を行う。保育所訪問等の対象期間を増やし、保育所や学校との関係性を深め信頼関係を築いていくことで、信頼できる事業所としての認知度を上げていく。
2	個別支援ゆえの療育時間の短さ	個々の発達の状況に応じた個別支援であり、子どもたちの集中できる時間を考慮すると1時間弱とどうしても短時間の集中療育となるが、近年は終日働く保護者も多く、長時間の療育を希望する保護者も多くなってきた。	長時間、小集団のカリキュラムの実施。スポット的な実施から、曜日を限定するが常設に移行していく。
3	施設建物の古さと道路に面した立地	施設建物が古く、トイレ設備などがバリアフリーになっていないが、賃貸物件のため工事等は不可能。また、交通量の多い道路に面しており、飛び出しの危険を含んでおり、駐車場での外遊びが出来ない。	トイレ設備など、対応できる範囲で使いやすいように工夫していく。施設の入出時の安全性に配慮しつつ近隣の公園などを利用した外遊びを工夫していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	こどもサポート教室「きらり」鈴鹿校
------	-------------------

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数

20

回収数

18

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16	2	0	0		法令を遵守したスペースを確保しています。完全個室は1室のみですが、他教室工夫しながら療育を提供しています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	17	0	0	1		人員は法令遵守しております。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17	0	0	1		平屋構造でホールに面した教室が並び、子どもにも分かりやすく、また床はバリアフリーとなっています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	18	0	0	0		
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17	0	0	1		丁寧なアセスメントを行い、十分な理解に努めます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15	1	0	2		支援プログラムに合わせ、更に個々の発達に考慮した支援内容になっております。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	17	1	0	0		ニーズや課題について職員間で検討を重ね計画を作成しています。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	16	0	1	1		必要な項目を適切に設定されています。計画については、ポルトガル語の文章の追記を行い理解できるように丁寧に説明を行っています。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	17	0	0	1		計画に沿って行っています。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16	1	0	1		好きな活動を取り込みながら固定化しないように工夫していきます。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	6	1	4	7		施設利用を知られたくない等、個人情報を考慮して施設開放していませんが、要望があれば検討していきます。
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	18	0	0	0		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	18	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	2	4	4		フィードバックで提案を行っているが、保護者会などでの機会は提供できていなかった。今後企画を検討していく。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	17	0	0	1		LINEやFacebookにてこまめに連絡やり取りを行い体調などを把握しています。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14	1	2	1		フィードバック時には療育の様子を丁寧に伝え、助言などを行っています。年に1回は聞き取り面談を行っています。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17	1	0	0		保護者様の思いにも寄りそいながら支援を行っていくように意識しております。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	7	3	6	2		10月には日本語の講演会を企画し交流しました。2月にはポルトガル語の交流会を企画しており、言語の負担なく楽しく参加できるように企画していきます。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	15	2	0	1		希望があれば、事業所内相談で十分に時間を取って対応しています。相談対応について再度周知していきます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	17	0	0	1		ポルトガル語以外の外国籍保護者に対応できる職員はいませんが、翻訳ツールなどで丁寧に対応していきます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	14	1	1	2		行事予定や活動の様子などブログやFacebookにて発信しております。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	17	0	0	1		個人情報は鍵付きの書庫にて管理され、また、端末データもパスワード対応しております。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	11	2	2	3		各マニュアルは策定され、訓練も行っています。再度、保護者への周知に努めます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	13	2	0	3		安全計画に基づき避難訓練など、定期的に行っています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	16	0	0	2		安全計画が作成され定期的に点検を行う等安全の確保あり、再度、周知に努めて行きます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	14	0	1	3	母国語がスペイン語の為、難しい。	通常の連絡はFacebookを通して翻訳したもので連絡させて頂いています。緊急時の対応について翻訳したものを準備して対応します。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	18	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	15	1	0	2		楽しく利用できるように、満足した支援になるように努めて参ります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	15	1	0	2	学校訪問など、情報が知りたい。	関係機関として連携しておりますので、希望の保護者様には、学校担任と情報共有しながら対応させて頂きます。満足のいく支援になるように努めます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	こどもサポート教室「きらり」鈴鹿校		公表日		2025年 2月 15日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	1	6	法令を遵守したスペースを確保しています。個別療育(1対1の2名)対応においても十分なスペースを確保できています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	法令を遵守した人員を確保しております。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	元コンビニ建物で床はバリアフリー。トイレのイラスト表示など配慮した表示になっています。	トイレのみ段差があり、利用時は指導員が付き添いしています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	0	7	消毒や清掃は、始業前に毎日行っております。	ホールは広く運動遊びが可能であるが、床が硬いだけでなく滑りやすい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	0	7	元コンビニ建物を利用、パーテーションにて個別の教室を作っています。	完全個別は1部屋のみ。必要児童の利用時間が重なる则対応が難しい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	3		PDCAサイクルについて理解不足。周知徹底していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	保護者様への評価記入をお願いし、業務改善につなげています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	話しやすい環境作りに努めており、日頃から職員間の意見交換は活発に行われています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	7	現在は、利用者・社内の2者評価を取っております。	第三者による外部評価については、現在実施予定はありませんが、今後必要に応じて車内で検討してまいります。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	3	定期的に本部主催の研修が行われ積極的に参加しています。	外国籍支援員はポルトガル語での研修が無く、事業所単位での勉強会に留まっている。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		支援プログラムについて適切な方法で公開しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		アセスメントを行い、本人や家族の状況を確認して計画を立案しています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		個別計画の担当者会議にて検討が行われています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		計画に沿って支援を行っております。日頃から職員間で課題について話し合う機会も多く情報を共有しています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		統一したアセスメントシート使用して確認しております。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		必要な項目を適切に設定しております。計画について保護者様に伝わりやすくなるようにより具体的に内容を記載しております。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		日頃から活動内容について提案や話し合いを行っています。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		効果的に楽しく取り組めるように工夫しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		現在、小集団のカリキュラムはありませんが、同時時間の利用者による集団活動をスポット的に行っています。	今後は小集団活動を(曜日限定であるが)常設していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		その日の利用者を確認して、役割分担や予定を確認しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		その日支援を担当した支援員以外でも、気になる子どもの様子や気付いたことについて声かけあっています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		支援の記録は徹底しています。記録することで気付き改善につなげています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		6か月に1度、モニタリングを行い見直しを行っています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7		活動を組み合わせ、生きる力や自立に向けた取り組みを行うことを見据えて活動内容を考えるようにしています。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		選択できる表出の仕方や選択できる提示などで、自分で選んだり決めたりできるように工夫しています。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		児発管を基本に、担当指導員が参加できる時は参加しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		情報の共有など関係機関との連携に努めております。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		送迎対象の学校もあり、情報の共有や必要時に連絡調整を行っています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	3	情報の共有など関係機関との連携に努めております。	継続して利用していない状況では情報提供しただけでないケースもある。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7		現在まで移行ケースの対象者が無かったが、今後の対象者には適切に対応していく。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7		常に連携を取っています。助言を求め相談する時もあります。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		7	個人情報の保護の観点から関係機関、関係者以外にはオープンにしていない。	要望があれば検討していく。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。		7	地域の自立支援協議会の委員については身体障がい者施設がメインとなっている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		支援後はフィードバックの時間を設けて話しています。送迎対象者には個々のLINEやFacebookにて報告、情報を共有しています	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		10月に保護者様に向けたメンタルケアの講演会を開催しました。今後も家族等が参加できる講演会など企画していく。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時に丁寧に説明を行っています。		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		保護者と子供それぞれの意向に寄り添いながらも、子ども側の代弁者として確認し進めていく。		
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		保護者様へ計画について丁寧に説明を行い、同意を得ております。		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		フィードバック時に聞き取りや助言を行う以外にも要望があれば、面談時間を設け対応しております。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		7	個別の面談はあったが、交流する機会がなく今年の2月にポルトガル語での交流会を企画しています。	今後は定期的に開催したいと思っているが、終日就労している保護者が多く難しい。楽しく参加できるように企画検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		苦情だけでなく相談や要望など速やかに職員間で検討し適切に対応しております。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		LINEやブログやFacebookにて活動を発信しております。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		個人情報関連の書類は鍵付きの書庫に保管しています。またPC端末はパスワード設定で対応しています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		利用者やご家族様の母国語に応じて、適切に意思疎通、情報伝達を行っています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		7	個人情報の保護の観点から関係機関、関係者以外にオープンにしません。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		マニュアルを作成して、研修を行っています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		BCPを作成し、その内容に基づいた訓練を行っています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		契約時にフェイスシートを記入してもらい状況を把握する様にしています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		食事やおやつ提供は基本的にありませんが、契約時の聞き取りをしています。また行事で提供がある時は再度確認しております。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全計画を作成して、毎月計画に沿った訓練を行っています。危険個所の有無についても随時点検しています。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		避難訓練などの実施後はブログやFacebookにて上げて周知しています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		ヒヤリハット事例が起こった時は報告書を作成して保管、職員間で共有しています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		マニュアルを作成して、研修を行っています。県主催の研修には必ず参加しています。	ポルトガル語での研修が無いこと。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		身体拘束する場合は、保護者に十分説明して個別支援計画へ記載します。契約時にも重要事項説明書を使って説明しています。		